

「都市計画」

谷津 憲司

YATSU Kenji

東北の街づくりから
世界の街づくりへ

地元宮城県の大学で建築設計を教える傍ら、東北の過疎地域の街づくりに関わってきた谷津憲司さん。地域の「モノ」と「ヒト」を生かすことが谷津さんの設計姿勢であり、地域の素材を使い、住民によるワークショップを繰り返しながら、さまざまな施設の設計を手掛けてきた。主な作品の一つである宮城県の道の駅津山、通称「もくもくランド」は、地元特産の杉を構造成材として効果的に使用した点が特徴だ。福島県の「三島町交流センター山びこ」は、イベントホールやギャラリーなどを併せ持つ多目的型の施設で、地域の歴史や文化、芸術を発信する拠点となっている。

「建築から人々の暮らしを変える」

南米コロンビアの首都ボゴタ市では、貧困地域の劣悪な住環境が問題となっている。この地で、住宅団地の建設や公園の整備などに取り組んでいるのは、東北を中心にさまざまな施設の設計を手掛けてきた実績を持つ谷津憲司さん。谷津さんにとっての第二の挑戦が始まっている。

JICA Volunteer Story

PROFILE

宮城県出身。1999年から東北工業大学・工学部建築学科の教授を務め、昨年3月に退職(現名誉教授)。今年1月から、シニア海外ボランティア(都市計画)としてコロンビアで活動中。



同僚たちとおそろいのジャケットで現地調査を行う谷津さん(右から2人目)



谷津さんは昨年3月の退職を機に、自身の技術や知識を開発途上国で役立てたいと考えるようになった。その思いを後押ししたのが、東日本大震災での経験だった。「学生たちと共に、被災地の仮設住宅などでボランティア活動を行いました。街づくりやコミュニティ形成において、建築学が果たせる役割の大きさを改めて実感しました」

シニア海外ボランティアとして今年1月から谷津さんが派遣されているのは、コロンビアの首都ボゴタ市だ。標高2600メートルの高地に位置し、年間を通じて穏やかな気候で過ごしやすいという。谷津さんは、同市の最南端にあるシウダーポリバル地区で、道路や公園の整備、それに住民の移転先となる新たな住宅団地の建設などに取り組んでいる。貧困層が多いことに加え、犯罪多発地帯としても知られる同地区。半数近くが非合法に開発された住宅地で、電気や上下水道の欠如、トタンやベニヤといった非耐久素材による自助建設の住宅、土砂崩れの危険性がある急斜面の宅地造成など、住環境に関する問題は山積している。

谷津さんが配属されたのは、建築家、技術者、法律家の12人で構成されているボゴタ市住宅公庫の都市計画部門。任務は、住宅団地の造成計画や集合住宅の建築計画、現場監理に対して助言を行うことだ。「都市計画は、企画から実施までの長い道りを経て初めて実現されます。予算が付かずに構想だけで終わってしまうケースも少なくないため、常に長期的な展望と実現に向けた戦略が要求されます」と谷津さんは話す。

住環境を取り巻く問題 長期的な視点で取り組む

ところが、ボゴタ市の場合にその障壁となるのが、職員の入れ替わりの早さだ。わずか数カ月間に、職員の半数以上が入れ替わることも珍しくないという。谷津さんは、「私も配属から3カ月後、都市計画部門か



a.トタンなどの非耐久素材による自助建設の住宅
b.斜面を公園化する予定地を視察する谷津さん
c.幹線道路の整備予定地。現状では路肩は崩れ、土のうが積んである
d.谷津さんが提案している「エコフレンドリーな公園」の計画図

ら地区改善部門に異動となりました。新しい部署でも人員の入れ替わりが激しく、どこに提案すればいいのか戸惑うこともあります」と苦労を口にする。そこで、谷津さんはコンピュータを用いた製図システム(CAD)や、パワーポイントなどを活用して、各過程でプロジェクトの内容をできるだけビジュアル化するよう心掛けています。現場を視察したら、すぐにパワーポイントに現場写真や分析データ、課題の要点などをまとめ、同僚に共有しているという。「共通の課題や方針がビジュアル化できれば、目まぐるしい職員の交代にも対応できるだろうと考えています。スケッチや図面を活用した視覚的な表現手段によって、言葉の壁もいくらか解消できています」

現在の地区改善部門では、幹線道路の計画や生活道路の改修などに取り組んでいる。また、整備が行き届いていなかったり、敷地内にごみが散乱していたりする放置空間を視察し、現状を分析するとともに、自然環境に配慮した公園計画を提案している。実際にこれまで、非合法住宅地と合法住宅地の境界に公園を作る計画と、長さ200メートルにおよぶ急斜面を活用する公園計画の基本構想を、現地の職員と共にまとめた。いずれも、周辺の生態系に配慮したエコフレンドリーな計画だ。「計画を立てる際は、周辺との関係を十分に吟味し、完成後の人の流れや波及効果を予測する必要があります。完成後の人々の流れや波及効果を予測する必要があります」と谷津さんは話す。

谷津さんの頭の中には、次なる構想が浮かんでいる。「まず一つは、頻繁に冠水する道路の排水システムの改善です。道路の構造、素材、デザインを含めて考えなければなりません。それから、ごみの回収システムも不十分なので、ごみステーションの施設を含めた道路や公園の計画を提案していきたいと思っています」

東北の街づくりに生かされてきた数々のアイデア。今度はそれが、コロンビアの首都が抱える問題を解決する力となりそうだ。